

村は神楽一色です

二月一日に県立劇場で行われる『熊本の動と静を観る』に、地元長陽村の長野岩戸神楽が出演します。当日はオールナイトの公演になりますので、お客様に村の郷土料理を提供するのに、私たち婦人会がお役に立つことになりました。

私たち婦人会では日ごろから、教育委員会のご協力のもと毎月一回集まり、育児の問題やふるさと料理の伝承の勉強会を開き、地域の文化祭にも積極的に参加し、活動してきましたので、この日ごろの活動が村の一大イベントに役立つわけです。

メニューはとうきびめんを使ったたご汁とタカナヤコシヒカリのおにぎり。どこの田舎にもあるごくありふれたものですが、阿蘇の匂いのするもの、地元の農産物をふんだんに利用しようと、材料を吟味し研究を重ねました。

いま長陽では寒風吹くなが、二十名の神楽の舞手の連夜の練習が続いてい

ますが、五百九十人の婦人会員も、その舞手以上に何とか成功させなくてはとがんばっています。

村は今神楽一色です。どうかみなさん見に来て下さい。食べに来て下さい。

阿蘇郡長陽村婦人会々長 中島ミフ



編集後記

- 住宅難、通勤地獄、駐車場問題等々東京はますます住みづらくなってるわね。(郁)
- お気の毒さと言いたいね。(雅)
- それでも若い人は東京に出ていくわ。東京ってそんなに魅力的なのかしら?(郁)
- 新聞・雑誌・テレビなど、情報のほとんどが東京から発信されているんだ。それに踊らされているんじゃない?(雅)
- 熊本から、もっと情報発信して人を魅きつけろ。(郁)
- そう、そのために誇りのもてる地域づくり、価値観づくりが必要だね。(雅)
- そして「風」に載せて全国へ情報発信(郁)
- 私たちの役割は大きい!?(雅・郁)

お詫びと訂正

本誌12月号「ふるさとをわたる風」のなかの「裏川の再開発構想(整備プラン)」は、熊本県建築士会玉名支部街づくり研究会が打ち出したものです。お詫びして訂正いたします。

表紙のことば 友枝雄策

花の少ない冬に咲く椿は寒空の中でやさしく心を温めてくれる。子供の頃は花を見るというより、遊びのあい間に椿の蜜をすって楽しんだ記憶がある。肥後椿はどっしりとして風格があり、まさに肥後六花の代表といえる花ではないだろうか。

シーン'92 撮影のことば 長野良市

『折上小組格天井』と呼ばれる天井の様式は、九州ではこの『猫寺』でしか見られない。黒く塗られた一梁に朱塗りの十六の枱目の連続は、緻密で重厚である。それに対して外観は、寛永2年(1625)の建立以来、被災に遭うことなく風雨にさらされ磨滅した柱や板塀が368年の歴史を物語っていました。

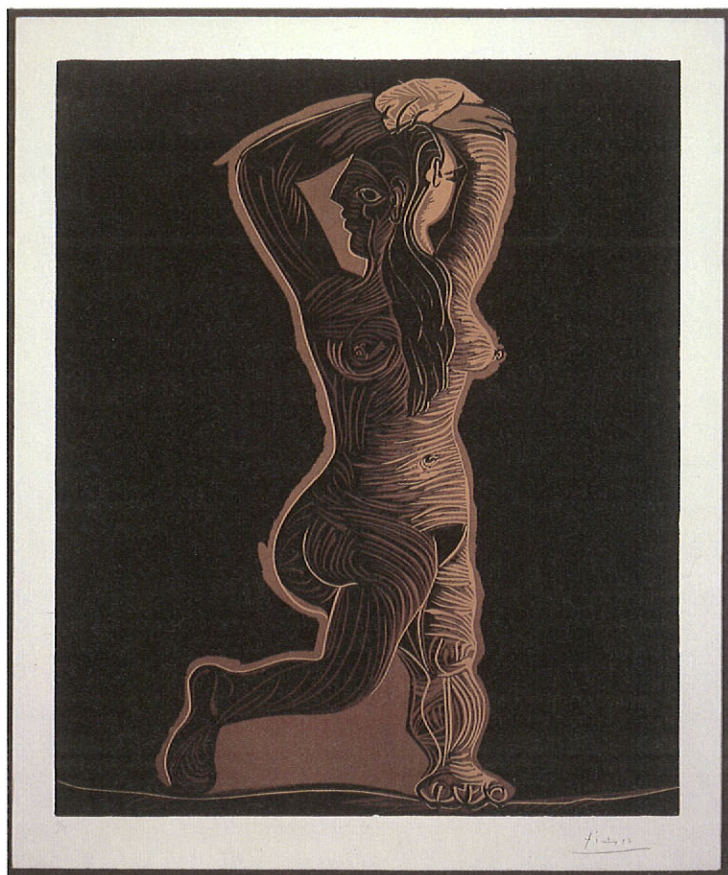
CONTENTS

1-2	小さな芽
3-8	対談～労働～
9-10	くまもと in the world～JETプログラム～
11-12	ママさんレポート～八代町道～
13-14	シーン'92
15-16	ふるさとをわたる風～野崎義哲さん～
17-18	News Flash Kumamoto
19-20	肥後歴史散歩～相良一族～
21-22	くまもと味な風景～晩白蛾～
23-24	INFORMATION
25	HOT LINE, さわやか～ぜ
26	くまもと美のたより

くまもと美のたより

県立美術館収蔵品から パブロ・ピカソ「裸婦」

パブロ・ピカソ《裸婦》
1962年
リノリウム版画(リノカット)
64.0×53.0cm



一九五九年の夏、ピカソは、従来の版画技法からはおよそ考えもつかないような、きわめて革新性あふれるテクニックを編み出した。その方法とは、普通は複数の版を必要とする多色刷りの版画を、一枚の原版を彫りすすめながらやってのけるという画期的なものだった。そして、その版材として採り上げたのが、床材用の素材であり版画の材料としてはそれまでだれも本格的には取り組まなかったリノリウムであった。

大二次世界大戦後、南フランスに居を構え制作することの多くなったピカソは、それまでパリの版画工房で行っていた石版画や銅版画の制作ができなくなってしまう。そんなとき、南仏の街に住むリノリウム版画(リノカット)の職人アールネーラに出会う。五十歳ほど年の違

う老匠と若き刷師(すりし)は意気投合し、二人の緊密な関係のもとに、版画表現の歴史に新たなページを開く斬新な作品群が産み出された。

この作品では、まず、何も彫り込まれていないリノリウム板にベージュ色のインクをのせ下地を刷ったのち、同じその原版を三つの段階に分けて彫りすすめながら、茶色、焦茶色、黒の順に刷り重ねられている。自由奔放なそのイメージには、ピカソの造形的な天才性とともに、技法そのものの新しい可能性を切り拓こうとする独創性が息づいている。そして、リノリウムの柔らかく彫りやすい素材感、湧き起こる着想をただちに造形化しようとするピカソの芸術家としての体質にふさわしいものであったのである。

熊本県立美術館主任学芸員/村上 哲

さわやか～ぜ



お便り募集

みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を200～400字程度にまとめてお送りください。(採用された方には「風テレホンカード」をプレゼント)



●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

愛読者募集

県では、県政広報紙KAZE(くまもとの風)の愛読者を募集しています。「くまもとの風」は、くまもとの新しい動きやユニークな人、県下各地の催物などを、写真やイラストを織り混ぜてお届けする広報誌です。あなたも、この機会に「くまもとの風」で素敵な出会いを体験してみませんか。

■発行/偶数月発行 年6回 ■郵送料として/1,500円(郵便切手でお願います。)
■お申し込みは/〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号 熊本県広報課「くまもとの風」係

毎朝ラジオ

RKK
「ふれあいくまもと」
毎週月曜日・土曜日7:40▶7:45

FMK
「県庁ダイアリー」
毎週月曜日・金曜日7:30▶7:36

週末テレビ
TKU
「フラッシュくまもと」
毎週土曜日 12:55▶13:00

KAB
「くまもとの彩」
毎週土曜日 22:51▶22:57

県政番組
KKT
「くまもと'92」
2/15日10:15～10:45
国際化に向けて……
今熊本では

RKK特番
好評により再放送決定
「くまもと近未来」
2/2日16:00～16:30「農業編」
2/15日15:00～16:30「福祉編」
2/29日15:00～16:30「水産編」
3/22日16:54～17:24「農山村」
3/31日10:00～10:54「通訳編」